

明治の末の新屋のはまの様子

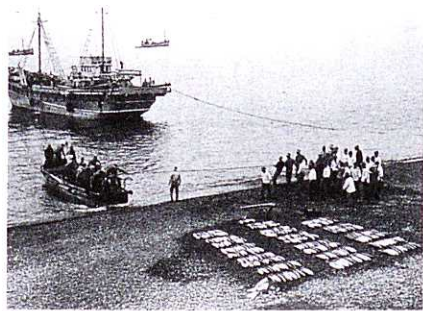
9
 まちづくり
 昔から今へ続く

① 焼津港の開発

上の絵は、百年以上前のまだ港のできていなかったころの新屋のはまの様子です。

まい子さんたちは、この絵を見て、昔の人は、港がなかったために、たいへんな苦勞をしていたのではないかと話し合い、みんなで焼津港ができるまでのことを調べることにしました。

最初に、まい子さんたちは、わかいころ漁師をしていたおじいさんの話を聞いてみることにしました。



おきにとめられた船から、はしけを使ってはまに魚をはこぶ。(昭和の初めごろ)

おじいさんの話や下の写真から、水あげの苦勞や台風の時のひなんなど、当時の人は港がなくてとてもたいへんな思いをしていたことがよくわかりました。

港ができる前の人々はどんな願いをもっていたのだろう。

おじいさんの話



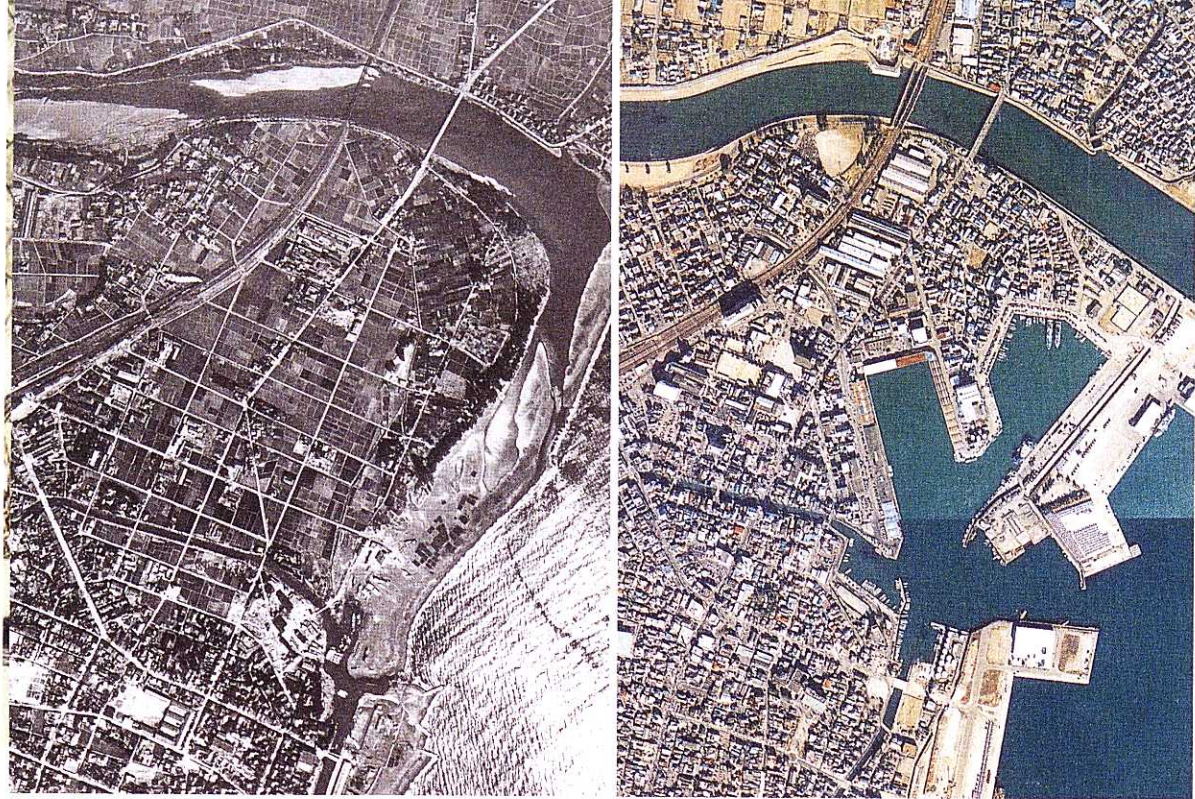
わしらが漁師をしていたころは、だんだん船もいかく（大きく）なり、遠い南の島の方まで漁をしに行くようになったよ。でも、そのころの焼津は、船から魚をおろす所がなくて、屋根のない、あらはまの石の上に、じかに魚をならべるもんで魚もいたみやすかったよ。わしらのじいさんの時代から海の水をくんで魚にかけるのが、登校前の子どもの仕事だっきよ。それに、台風が来ると、波が高くなって逃げるところがないきもんで、わざわざ清水港などの港にひなんしなくちやあならなかつたよ。



はしけから魚をはまにおろす。(昭和の初めごろ)



はまにならべて魚に海水をかける。(昭和の初めごろ)



昭和21年ごろの焼津港付近

平成13年ごろの焼津港付近

だれがどのようにして、焼津港を開発したのだろう。

(1) 焼津港の今と昔

① 昔の焼津港付近の様子を見てみよう

まい子さんたちは、昔の焼津港の様子を調べるために、図書館へ行き、『やきつべ』という焼津市の昔のことがわかる写真集を見ました。

すると、上のような2つの写真を見つけました。この2つの写真をくらべてみると、今の焼津港のある場所が、昔は瀬戸川の河口付近だったことがわかります。まい子さんたちは、昔と今ではずいぶん様子がちがっていることにおどろきました。



写真集「やきつべ」

焼津港の開発年表

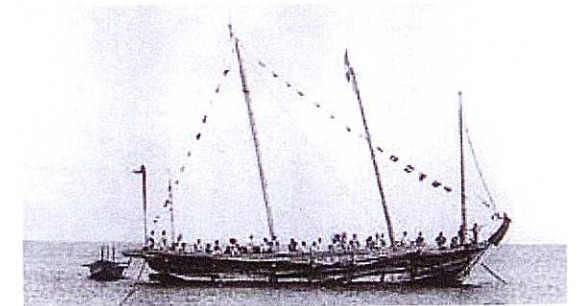
時代	年代	できごと	時代	年代	できごと
江戸	1810年ころ	・城之腰・鯛ヶ島のうらに堀川（今の黒石川）がほられ、そこからおきにとまっている船に小舟で荷物を運んだ。	昭和	1932年	・「焼津築港期成町民大会」が開かれた。 ・「焼津築港期成同盟会」がつくられた。
	1850年ころ	・大きなかつお船（八丁ろ）で伊豆のおきや遠州灘の方まで漁にでかけた。		1934年	・弥吉が、月に3回「焼津時報」の発行を始め、築港の様子を町民に伝えた。（1939年廃刊） ・国の港湾協会へお願いをし、調査が行われた。
明治	1888年	・台風で多くの家がこわされ、船が流された。	昭和	1936年	・町や漁業関係者が、国や県に築港予算のお願いをした。その回数は、40回にもおよんだ。
	1899年	・山口平右衛門の努力で堤防の工事が始まった。		1937年	・焼津の漁船が戦争で使われ始めた。
	1907年	・大堤防が完成した。		1939年	・7カ年計画で、港の工事が本格的に始まった。
	1908年	・片山七兵衛が焼津に初めて動力船を進水させた。 ・山口平右衛門や服部安次郎らが「港湾期成同盟会」をつくった。		1941年	・戦争のため工事が一時中止された。
大正	1920年	・国に調査をたのみ築港計画ができあがった。	昭和	1949年	・港の工事がふたたび始まった。 ・しゅんせつ船「長島丸」により工が進む。
	1923年	・「港湾期成同盟会」が解散した。		1951年	・小川港の港づくりの工事が始まった。 ・焼津港ができ、おいわいの式をした。
昭和	1928年	・持塚弥吉が「焼津漁港建設促進会」をつくった。	昭和	1954年	・焼津魚市場の建物ができた。
	1929年	・弥吉が、家業をやめ築港運動に専念する。署名活動や「築港促進歌」作りを行った。 ・県が測量調査を行った。		1969年	・小川港もふくめて焼津漁港となった。
	1931年	・弥吉が、たたみ5枚分の「焼津築港後のちょうかん図」を大正町に建てた。また、築港への理解を広めるための本「水産の焼津」を発行した。			

まい子さんたちは、焼津港の開発に関する年表を見ながら、気づいたことを話し合いました。

- ・港ができるまでに、長い年月がかかったんだね。
- ・江戸時代からかつお漁がさかんに行われていたんだ。



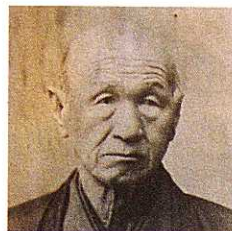
かつおの一本釣り



焼津で最初の動力船

焼津の漁業の発展につくした人たちは、どんな仕事をしたのだろう。

記念碑の高さは、約3.5メートルもあって、毎年4月には、慰霊祭が行われているそうよ。



山口平右衛門



服部安次郎



片山七兵衛

② 焼津の漁業の発展につくした人たち

わたしたちは、焼津の漁業の発展につくした人たちの記念碑が、焼津神社にあると聞いたので、さっそく調べに行きました。



水産翁の記念碑

山口平右衛門は、何度もくり返される高波のひがいから家や漁船を守るために堤防を作ろうと努力した人でした。

服部安次郎は、平右衛門といっしょに堤防をつくり、焼津の海岸に「ほりこみの港」をつくろうと取り組んだ人でした。

また、片山七兵衛は、漁船にエンジンをつけ遠くまで漁場を広げることに成功した人でした。

こうした努力が、遠洋漁業の町・焼津をつくりあげていったことがわかりました。

もう少し、くわしく調べるため、近くに
住むおじいさんの話を聞くことにしました。



おじいさんの話

この人たちは水産翁とよばれ、明治時代の終わりごろ焼津の漁業をさかんにするためにかつやくした人たちなんだよ。

今から、100年以上前の焼津は、台風のたびに大きなひがいを出したんだよ。特に明治31年（1898年）の台風のときは、たくさんのお家がこわれ、漁師の命ともいえる大切な船が流されてしまったんだ。海岸近くに住む人々は、希望を失ってどこか安全な場所にうつろうと相談したんだ。

その時、水産翁の一人山口平右衛門は、一けん一けんの家をたずねて人々をばげまし、大崩の山をこえ、県庁に堤防をつくるためのお金を出してもらった。こうして何度も歩いてお願いに行ってきたんだ。こうした努力によって、高さ8メートル、長さ約1キロメートルの大堤防が完成し、人々は安心して海岸近くに住めるようになったんだ。

また、漁船に氷をつむことを熱心にすすめたのも平右衛門だったよ。そのおかげで、遠くの漁場から鮮度を保ちながら魚を運び、魚を高く売ることができるようになったのさ。



大正時代の大堤防



今も残る「浪除地蔵」(鯛ヶ島)
波をせき止めることから「咳止め地蔵」とも言う。

なかなか進まない港づくりを、だれが、どのようにして進めていったのだろう。

焼津の人々の多くは、港づくりをあきらめかけていたのね。



(2) 港をつくる

① 港づくりにささげた生涯 持塚弥吉

焼津の海岸は、波が荒く浜辺がまっすぐ
にのびているので、船を沖にとめることしか
できず、港をつくるのによい場所ではあ
りませんでした。焼津に住んでいる人たちは、
港はほしいけれど、港をつくるのは、
たいへんむずかしい工事なので、本当にで
きるかどうか疑問に思っていました。

まいこさんたちは、港づくりがどのよう
に進んだのか調べるために、歴史民俗資料
館へ行き、学芸員の方にきいてみました。
町人の一人で、港づくりを強くのぞんでい
た「持塚弥吉」という人について話してく
ださいました。



昭和時代の初めころ 港をつくる予定の場所



持塚弥吉



賛成署名を集めた名簿



自費出版本
『水産の焼津』

学芸員の栗田さんの話



港づくりがなかなか進まない昭和時代の初めごろ、焼津の人々に港づくりの大切さをうったえた持塚弥吉という人がいます。弥吉は、1894年（明治17年）に榛原郡金谷町（現島田市）に生まれました。その後、焼津に移り住み商売を始めると、港がないため焼津の漁師たちが大変な苦勞をしていることを知ります。

1928年（昭和3年）、弥吉は「焼津漁港建設促進会」を立ち上げ、港づくりの運動を始めます。未来の焼津港のすがたをかいた大きな看板を大正町通り（今の昭和通り）にかかげたり、『水産の焼津』という本をつくったり、港づくりの賛成署名を集めたりして、港づくりを町民にうったえました。

弥吉は、港づくりの活動を行うため自分の店を他の人に渡してしまします。そのため、港づくりのお願いに県庁へ出かける汽車賃にさえ困る生活でした。その上、よそ者である弥吉の活動に対して、町の人々の多くは「移入者、山師」などと言って冷たい態度でした。それにもかかわらず、活動を続けた弥吉は、少しずつ港づくりに賛成の人をふやしていきました。

1938年（昭和13年）、ついに港づくりが国でみとめられました。弥吉は、神だなにお酒をあげ、「完成した港を見て死にたい」とうれし泣きをしたそうです。

焼津港の工事は、
どのように行われ
たのだろう。



工事が始まってから
も、さまざまな苦勞
があったのかな。

おじいさんの話

焼津の漁船も戦争の
ために使われ、53
せきがしずめられ、
400人以上の漁師
が死んだんだ。戦争
が終わった時には、
焼津のかつお・まぐ
ろ船は18せきしか
残らなかっただよ。



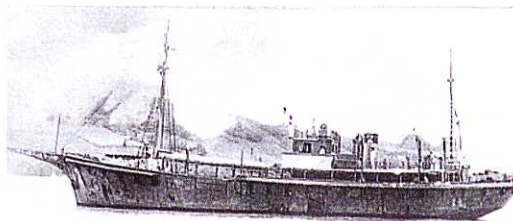
しゅんせつ船

海や川の底をほっ
て、土砂などを取り
のぞく作業をする船

②港の工事

1939年（昭和14年）、いよいよ港づく
りが始まりました。しかし、やっと始まっ
た工事も1941年（昭和16年）から始まっ
た大きな戦争によって一時中止しなくては
なりませんでした。

それに、焼
津の多くの漁
船も戦争のた
めに使われ、
そのほとんど



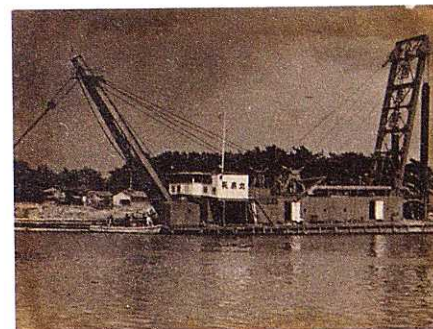
戦争で使われた焼津の漁船

がしずんでしまいました。

戦争が終わり、世の中が落ち着いてくる
と、ふたたび港づくりの工事が始まりました。しかし、今までのしゅんせつ船では、
せっかくほっても、波によってまたうまっ
てしまい、工事はなかなか進みませんでした。そこで、ほった土砂どしゃをそのままポンプ
によってすい上げ、うめ立て地さいしんに出す最新
型のしゅんせつ船ながしまる「長島丸」を使うことに
しました。

この長島丸の大かつやくで、港の
工事はぐんぐん進みました。

そして、1951年（昭和26年）、
焼津の人たちが待ち望んでいた港
ができたのです。



ポンプ式しゅんせつ船「長島丸」

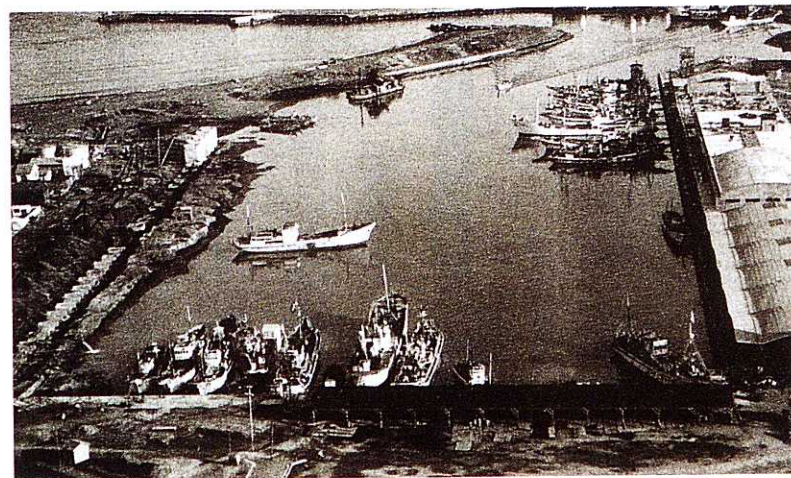
学芸員の栗田さんの話

昭和26年6月4日、港しゅくがかいができた祝賀会が行われました。

その時、持塚弥吉は病どこの床についていました。しかし、病気をおして、会
場のすみにひっそりと座すわり、祝賀会に参加しました。この時、弥吉は、声を
立てて泣いて喜んだそうです。

祝賀会から20日後の6月24日、弥吉は、ひっそりと57歳しょうがいの生涯を閉じま
した。

焼津漁港の生みの親ともいえる持塚弥吉を「焼津漁港築港らっこうの父」として、
たたえたいと思います。



完成したばかりの焼津港

かまぼこ型の屋
根がついた建物
が、魚市場だね。



港ができて、漁業の様子はどう変わったのだろう。

(3) 港ができて

長い間の願いがかなえられ、焼津にりっぱな港ができて、人々はとても喜びました。あらしのときは、船は港にひなんすることができるようになり、とれた魚は、屋根のついた市場にならべられるようになりました。できあがった港は、「東洋一の漁港」とよばれ、焼津の人々の自まんになりました。



大量の水あげでにぎわう焼津港 (昭和30年ごろ)

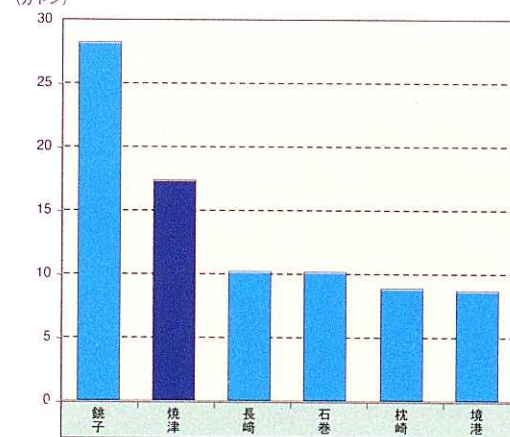
県内や他県の船も焼津港に来て水あげをするので、全国の中でも水あげ量が多い港になりました。

焼津港の水あげ量のうつつりかわり

焼津港ができる前 (1950年)	約2万トン
焼津港ができた後 (1951年)	約5万トン

(焼津・小川漁協)

令和元年全国のおもな漁港の水あげ量



(※焼津漁港→焼津港+小川港)



(4) これからの焼津漁港

これまで、大型の遠洋漁船が多く来港することに備えて、外港や新港を整備してきました。それによって、安定した水あげ量を確保することができました。

また、周辺の道路を広げて、魚をすばやく工場や加工団地へ運ぶことができるようになりました。

さらに、駿河湾深層水を利用した展示しせつや健康しせつを建て、市民がやすらぐ親水公園もつくりました。

これからの焼津漁港は、市民と海とのふれあいを深める場になろうとしています。

これからの焼津漁港は、どのように発展していくのだろう。

アグアスやいづ(左)・うみえ〜焼津(右)



多目的砂広場



ぼうはでい 防波堤を長くする
など津波対策にも
つなみたいさく
力を入れているよ。



昔と今では、川の
流れがずいぶんち
がうんだな。



大井川の昔の様子
はどうだったのだ
ろう。



大井川の「井」とはわき水や流れのことで、大きく強い流れをもつ川として「大井川」と名づけられたんだよ。昔の大井川は、大雨が降るたびに流れを変え、土地を一生けんめい耕しても、洪水でこわされるといったことをくり返していたんだよ。

だから、大井川地区は川の流れの位置によって、榛原になったり志太になったりしていたんだね。

そのころ、川の中の高く島のようなところが中島、西側の島が西島と呼ばれていたそうよ。陸上競技場の近くの木々が茂っているところには、昔は村があったんだけど、洪水で流されてしまったんだよ。

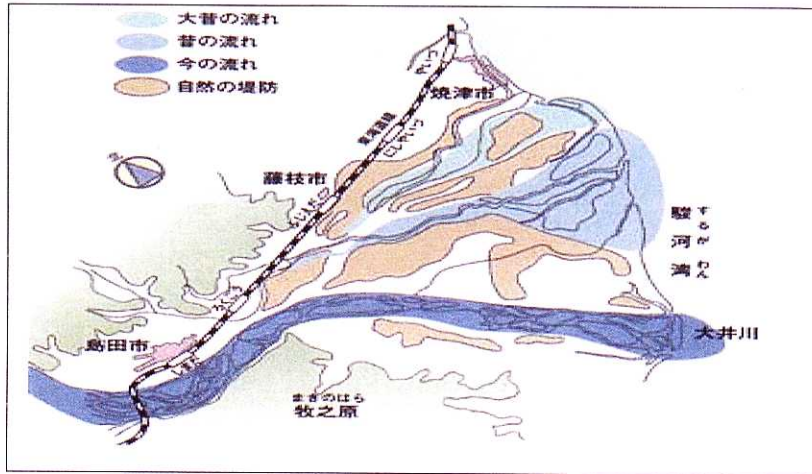
中島などで行われるトーロン祭りは、洪水のために死んだ人たちのたましいをはずめるために始めたと伝えられているよ。



中島のトーロン

② 大井川地区のゆたかなまちづくり

(1) 大井川とのたたかい



(浅井治平著「大井川とその周辺」の一部修正)

上の図は、昔と今の大井川の流れのうっり変わりを表しています。

さくらさんたちは、この図を見て、昔と今とではなぜ川の流れがこんなにちがうのかと思い、昔の大井川の様子について図書館へ行って調べてみることにしました。

図書館司書の方の話



この写真を見ると、
西島は今は大井川の
東側だけど、昔は西
側だったことがわか
るわ。



大井川の洪水のれきし

江戸時代	1604年	大洪水で大井川地区のほぼすべてが流されてしまった。
	1618年	西島の堤防が切れて家や田畑が流され、村を出ていく人もいた。
	1639年	西島の堤防が切れ、田畑が大被害を受けた。村人が出て行き、70 けんから12~13 けんの家がへった。
	1687年	吉永・飯淵などで大洪水によって被害が出た。
	1715年	相川・上泉の堤防が切れて被害が出た。代表が江戸(今の東京)へ行って堤防工事をたのんだ。
	1717年	中島・飯淵の堤防が切れた。たくさんの人が死んだ。
明治	1813年	中島・飯淵の堤防が切れ、また、たくさんの人が死んだ。
	1828年	上泉の堤防が切れ、田畑や家が流され人や牛もおぼれ死んだ。
	1837年	飯淵の堤防が切れ、住民は草木の根を食べてうえをしをのいだ。
	1874年	西島の堤防が切れ、多くの田畑が流され、米がまったくとれなかった。
	1881年	洪水で橋が流され、橋を守ろうとした人が流されて死んだ。
	1900年	上泉の堤防が切れた。相川・下江留・西島・宗高・藤守にわたり田畑が流された。
	1902年	大洪水によって川に架かる橋が流された。

図書館司書の方の話を聞いたり、大井川の洪水のれきしについて調べてみたりして、さくらさんたちは、昔の大井川は、大雨が降るたびに流れを変えてあばれまわって洪水をくり返し、そこに住む人々を苦しめていたことがよくわかりました。

1604年の大洪水で、
大井川地区はすべてあ
れ地となってしまった
ために、それ以前のも
のがあまり残っていな
いんだって。



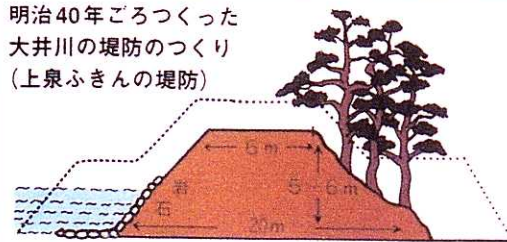
おそろしい洪水からまちを守るために、昔の人々は、どんなことを考え出したのだろう。

やしきが、船のようにつくられていて、船の先を大井川の川上に向けているので、流れから家を守ることができるのね。



石を積んだり、松の木を植えたりして、じょうぶな堤防をみんなで一生けんめい作ったのね。

明治40年ごろつくった大井川の堤防のつくり(上泉ふきんの堤防)



川の流れる側には、岩石をしきつめた。堤防のうら側には、堤防を強くするために松の木をうえた。この松は大井川の松なみ木となり、強い北西風をふせいでくれた。(点線は現在の堤防)

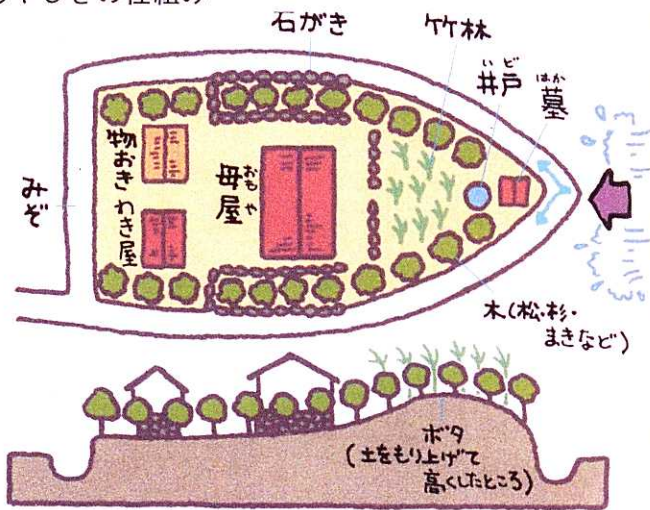
(2) 洪水からまちを守るくふう

さくらはさんは、^{ていぼう}堤防の近くにあるお地蔵^{じぞう}様や、家を洪水から守るために作られた舟^{ふな}形やしき^{がた}について調べてみました。



舟形やしき

舟形やしきの仕組み



さくらはさんは、どのようにして舟形やしきができたのか、そこに住んでいる青野さんの話を聞いてみることにしました。

青野さんの話

わしのおじいさんから聞いた話なんじやが、1828年(文政11年)6月、大雨が降ったため大井川上流の川根村で山くずれがあり、川の水をせき止めてしまったんだそう。それから7日たち、ついに^{かわね}ていぼうがこわれてしまい、水は一気に田畑や家の方へ流れこんでいったんだそうじやよ。

その時、わしの先祖である七左衛門^{しちざゑもん}さんの家の方にも水が流れてきたので、嫁とおばあさんと3人で手を取り合っ、急いで天井の上へにげたん^{てんじょう}だそうじや。そのうちに家は流れ始め、やがて高福寺^{こうふくじ}の近くで止まったん^{おそ}だつて。3人は屋根の上で7日間もすごしたんじやよ。それから10日ほど経ってようやく水が引いたそう。

この時の洪水の恐ろしさを身をもって体験した七左衛門さんは、1851年(嘉永4年)にやしきを舟形に作りかえたんだ。家のまわりに1~2m

ほどの石垣をつくり、松や竹で囲んだんじやよ。そして、やしきの先端^{せんたん}を大井川の上流に向け、流れに逆^{さか}らわれないようにして、洪水から家を守るようにしたんだそうだよ。

また、人々は洪水から家や自分の命を守るために、川除地蔵^{かわよけじぞう}を置いたそうだよ。



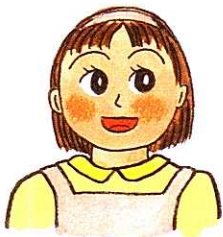
さくらはさんは、青野さんの話を聞いて、昔の人々は自分たちの命や家を洪水から守るために、さまざまなくふうや努力を重ねながら大井川とたたかってきたことがよくわかりました。

大井川地区のまちづくりに力をついた人は、どのような取り組みをしたのだろう。



池谷政一郎

まちづくりのためにいろいろなことをしているんだね。



(3) ゆたかなまちをめざした池谷政一郎

たび重なる洪水による被害に苦しめられていた昔の人たちの生活は、大変苦しいものでした。

さくらさんは、そんな生活を変えようとして立ち上がった人たちの中の一人、池谷政一郎について、図書館で調べてみることにしました。

○学校をつくる

「いつまでも昔と変わらない農村に文明開化の波はやってこない」と考えた政一郎は、まず学校をつくることに力を注ぎました。はじめはあまり生徒が集まりませんでしたが、「子どもに教育を受けさせてほしい」という政一郎の強い願いが届き、1873年（明治6年）に宗高学校として開校しました。宗高学校には医者の大塚先生や政一郎の努力により、村々から多くの生徒が集まりました。その後、宗高学校は、静岡高等小学校となりました。



宗高学校跡の石碑



宗高郵便局（天正初期）

○郵便局をつくる

1871年（明治4年）に郵便制度が始まりましたが、大井川地区は「陸の孤島」と呼ばれるほど、交通や通信に不便なところでした。手紙が出せないと時代に遅れてしまうと考えた政一郎は、1875年（明治8年）、宗高村に郵便局を作るようお願い出て、郵便局ができました。政一郎は局長として活やくし、志太地区の多くの村人に郵便の便利さをもたらしました。

さくらさんは、池谷街道が政一郎と何か関係があるのかと思い、調べてみることにしました。

○道をつくる

昔、静岡から浜松までの道は曲がりくねっていて、とても不便でした。そのため政一郎は、1878年（明治11年）多くの村のみんなと力を合わせて静岡県令（今の県知事）をお願いをしました。

新しい道路を作ることは、とても大変な作業でした。大井川には堤防を築いて、国分橋をかけましたが、1881年（明治14年）4



現在の池谷街道

月には、降り続いた大雨により橋が流されてしまいました。この時、橋を守ろうとした人が亡くなりました。

こうした人々の努力によって、1885年（明治18年）、ようやく新しい道ができました。道のりは大きく短縮され、人々はとても喜びました。この道は「静浜街道」と名づけられましたが、人々は「池谷街道」と呼んで、政一郎をたたえました。



国分橋跡近くの石碑

(4) これからの大井川地区

多くの人々の努力でりっぱな堤防とダムができたので、大水の心配はほとんどなくなりました。その後、全国でもめずらしい町営の港ができ、国道が通り、大きな会社や工場も建てられ、新しい公共施設もたくさんつくられました。平成30年11月、焼津市と合併して10周年を迎えました。大井川地区は、今後も大きく発展していくことでしょう。



焼津市・大井川町合併10周年記念式典

学習のまとめ

さくらさんたちは、自分たちが調べた舟形やしきについて新聞にまとめました。

舟形やしきは、こうなっている!!




高い!!
竹や山も木の木もたくさん!!

舟形新聞

記者

家のまわりはずなと石でぼたが作られています。ぼたはわたしの身長より、60ぐらいたきくて、小またでは歩きました。こんなに大きいので、家に水が来ても、家の中に水が入らないのでいいなと思いました。

6月が来るまで毎日大雨がふり、川根というところで、山がずれがおき、白たつとていぼがはれつして、田んぼなどに水が流れて、七左衛門さんの家にも水が来て家が流され、いまいぼした。りつさんと、おまきさん、ぼたの上のぼりまんだ。



さ福寺まで流され、5日たつて水が引き、こう水のおそろしさを知った七左衛門さんは23年目に舟形やしきを考えました。

社説(思ったこと)
舟形やしきの先が大井川に向けてあるから、流れから守られるので、すごいと思いました。ぼたが高くなって、家の中に水が入らないようにしてあるので、びっくりしました。



石はとてもおもった!! 体験
石がつかさねて、近くなつたよ!!

みなさんも住んでいる地域の発展につくした人を調べて、マンガや紙しばいなどにまとめて発表してみましょう。

池谷政一郎

陸の二島を開く

大井川は、大水のために、昔から人々を苦しめました。大井川町は、川の西になったり東になったりしました。今から100年前には、「向こう橋原十八カ村」とよばれていました。

いつまでも昔とかわらない農村で、文明開化の波もこまきませんでした。

宗高村の池谷政一郎は、考えました。

1990.6 「母と生活」より
原作：杉本正巳
画：岩ヶ谷光

しかし、村人たちは、百十の子ども、学校は、いらねえだ、ムリ、金持ちをわけ、学校に行かせられえ、それでも政一郎は村を回して話した。

宗高学校は、明治六年、宗高学校として開校!!

宗高学校は、ほかの小学校に比べて、特に生と教も多かった。

生と教も多かった。集まるようになった。

宗高学校は、ほかの小学校に比べて、特に生と教も多かった。

政一郎のおかじかかったのだ。

まず教育から始めなければ!!

一日も早く学校を建てよう!!

医者の大塚先生に会って先生の子も、先生に話を聞かせてください。

宗高学校は、その後、静浜高等小学校と名付た。

学びのてびき

- 紙しばいをつくる時には?
- ① 見る人にどの場面を見せるのかをよく話し合せて選ぶ。
大きな出来事が起きた時など、話の流れがわかる場面などを選ぶとよい。
 - ② できごとの順番が見る人にわかりやすく伝えるようにする。
見る人の注意を引くために、最初の場面ではみんなのよく知っているものを写真で見せるなどの工夫を考えてもよい。
 - ③ それぞれの場面で読みあげる説明やせりふを台本にまとめておく。
せりふは、その人物になったつもりで、気持ちをこめて読みあげる。

他にも今まで調べたことを年表にまとめたり、ポスターを作ってみたりするのもよいですね。また、先人の思いを受けて、自分たちができることを話し合ってみましょう。